

SHARP®

データセキュリティキット

形名：BP-FR12U

取扱説明書



このたびはシャープデータセキュリティキット BP-FR12U をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書は、いつでも見ることができる所に必ず保管してください。万一、ご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、きっとお役に立ちます。

お願い

- ・この取扱説明書は内容について十分注意し作成しておりますが、万一ご使用中にご不審な点・お気付きのことがありましたら、スタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
- ・この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店、またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
- ・お客様または第三者がこの製品および別売品の使用誤りや、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ・この取扱説明書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載、あるいは複製することを禁止します。

ご注意

- ・本書で記載している「設定（管理者）」とは、管理者権限でログインする設定を表し、「設定（一般）」とは、一般のユーザー（管理者を含む）がログインできる設定を表します。
- ・この取扱説明書の内容は、改良のため予告なく変更することがあります。

絵表示について

本書で使用している絵表示は、次の事がらを説明しています。

	機能や操作手順について補足説明しています。
	操作の中止方法や訂正方法について説明しています。

取扱説明書に記載している操作画面、表示されるメッセージ、キー名称などは改良変更などにより実際の表示と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

はじめに

本書は「データセキュリティキット BP-FR12U」の取扱説明書です。

本製品は、シャープデジタルフルカラー複合機（またはシャープデジタル複合機）にセキュリティ機能を付加します。

セキュリティ機能が付加されたシャープデジタルフルカラー複合機（またはシャープデジタル複合機）では、コピーやプリンター、ファクスなど各種機能を利用する際、各ジョブにおいて生成される画像データの暗号化処理を行い、さらにジョブ完了後、ストレージ上に保持されている暗号化されたデータを随時消去します。

■プロダクトキー入力について

セキュリティ機能を有効にするためには、最初に一度だけ設定（管理者）のシステム設定を使ってプロダクトキー（パスワード）またはアプリケーション番号を入力する必要があります。使用するシステム設定名は「データセキュリティキット」です。入力するプロダクトキー（パスワード）またはアプリケーション番号は、お買いあげの販売店にお問い合わせください。（この操作は、本製品の設置時にサービスマンが行います。）

■ドキュメントファイリング機能による保存データのバックアップと消去について

本製品を複合機に装着した後は、装着以前にドキュメントファイリング機能によって複合機に保存したデータは使用できなくなります。本製品を装着する前に必要なデータをパソコンなどへ保存し、複合機内のドキュメントファイリングデータを消去した後に本製品の装着を推奨いたします。また、パソコンに保存したデータは本製品を装着後に複合機へ戻すことで使用することができます。（この操作は、データセキュリティキットの設置時にサービス担当者が行います。）

本製品を設置後、パソコンに保存したデータを複合機に戻すことができるフォルダーは、親展フォルダーのみになります。データを複合機に戻す前に、必要に応じて、親展フォルダーを作成してください。

■ Web ページのパスワードについて

本製品を設置した複合機の Web ページへのアクセスはユーザー認証が必要です。

ユーザー認証時にパスワードを連続 3 回誤った場合、ユーザーアカウントがロックされ、以降そのユーザーによる本製品を設置した複合機の Web ページへのアクセスが 5 分間禁止されます。

詳しくは「ロックアウトについて」(本書 16 ページ) を参照してください。

ご注意

データセキュリティキットを装着することにより、未装着状態時とは操作方法が異なる内容があります。複合機の取扱説明書では、未装着状態を前提とした説明を行っていますので、装着時の操作の違いについてこの説明書および注意書をよくお読みください。

■ 本製品、および、本製品を設置する複合機の所有者の方へ のお願い

本製品を設置した複合機をよりセキュアな状態でご利用いただくために留意すべき項目について、以下に説明します。

運用環境について

- 複合機の運用環境として、取り扱うデータの価値に見合った物理セキュリティを確保してください。
- 複合機をネットワーク接続する際は、インターネットに直結せず、ファイアウォール等により保護された LAN で、複合機との通信が認められた機器（パソコン等）だけが接続されたサブネットワーク（ルータで区切られた範囲）に接続してください。また、その状態が常に維持されるように、サブネットワーク内の接続機器の管理を行ってください。
- 複合機と通信する機器（パソコン等）は、複合機の利用者以外に利用されることがないように、それら機器の使用にログイン操作が必要となる設定を行ってください。

- 外部電話接続端子に外部ファクス機を接続しないでください。複合機で受信データ印字ホールドを設定している場合でも、接続した外部ファクス機で受信してプリントされる可能性があります。
- ネットワーク認証 (LDAP/AD 認証)、または Sharp OSA 外部アプリケーションを用いたユーザー認証をご利用する場合、パスワードの誤入力を繰り返した場合などに認証を停止するよう、認証サーバー側の設定を適切に行ってください。

利用者の管理について

- セキュリティを確保する上で、複合機の管理者は重要な役割を持っていることをご理解いただき、その人選を厳重に行ってください。
- 複合機の利用者（管理者も含む）に対して、組織のセキュリティ方針について理解し、本ガイダンスの内容に従い本製品および本製品を設置した複合機の管理・運用を正しく行わせるための指導を行ってください。また、利用者に対して以下のことを徹底してください。
 - ・ コピー、プリント、およびファクス受信で出力された紙は、利用者自身が責任を持って管理してください。
 - ・ 操作パネルからの複合機の操作を終了する場合は、[ログアウト] キーをタップして、必ずログアウトを行ってください。
 - ・ Web ページからの複合機の操作を終了する場合は、Web ブラウザー上の [ログアウト] ボタンをクリックするか、Web ブラウザーを終了して、必ずログアウトを行ってください。
 - ・ 利用者パスワードは容易に推測可能なものに設定せず、他人に流出しないように管理を徹底してください。
 - ・ 電話線外れ、送信先通話中などが原因で完了していないファクス送信データおよびインターネット Fax 送信データ、および用紙切れ、紙詰まりなどが原因で完了していないジョブの画像データは、暗号化された状態で複合機内のストレージに保存されたままとなり、対象のジョブが完了またはキャンセルされるまで消去されないことにご注意ください。

- 複合機との通信が認められた機器（パソコン等）との通信中、意図せず接続が切断されてしまった場合は、LAN ケーブルが抜けているなど物理的に接続が切断されていないか、通信先の機器側に異常がないか確認してください。確認の結果、問題がなかった場合は、複合機の電源を入れ直してから再度通信を試みてください。（電源を何度か入れ直しても通信中に接続が切断される場合は、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。）
- 複合機の管理者に対して以下のことを徹底してください。
 - 組み込み管理者（admin）パスワードは容易に推測可能なものに設定しないでください。
 - 組み込み管理者（admin）を含む、全ての利用者のパスワード情報が第三者に流出しないよう、管理を徹底してください。
 - 管理者を交代した場合、組み込み管理者（admin）パスワードを速やかに変更してください。
 - 操作パネルで「設定（管理者）」を使用中に一時的にでもその場を離れる場合は、[ホーム画面] ボタンを押した後に [ログアウト] キーをタップして、必ずログアウトを行ってください。
 - Web ページで「設定（管理者）」を使用中に一時的にでもその場を離れる場合は、Web ブラウザー上の [ログアウト] ボタンをクリックするか、Web ブラウザーを終了して、必ずログアウトを行ってください。
 - 利用者の管理において、一般利用者の [権限グループ] に [管理者権限] を設定してしまうと、管理者の意図しない複合機の設定変更がなされる可能性があります。利用者の登録／修正を行う場合は、管理者以外の利用者に [管理者権限] を設定しないことを推奨いたします。
 - 利用者が属する権限グループの設定変更は即時反映されますが、設定変更時にログイン中の利用者については、ログアウトするまでは変更前の権限グループの設定が適用されますので、そのような利用者に対して一度ログアウトしてから再度ログインすることを喚起してください。

その他ご注意

- 本製品の設置前にデータセキュリティを有効にした状態でエクスポートした暗号化保存されたデータは、本製品の設置後にインポートすることができなくなります。
- [個人情報及び本機内データの初期化] は、複合機内のデータをすべて初期化する機能になります。本機能を使用すると、複合機に保存された個人情報、ユーザー情報、ジョブデータ等はすべて消去され、設定情報は工場出荷状態に初期化されます。本機能は、主に複合機を廃棄、または所有者を変更する場合に使用してください。
 - ・ 本機能は、管理者のみ操作パネル上から使用することができます。
 - ・ 「設定（管理者）」の [システム設定] → [セキュリティ設定] → [個人情報及び本機内データの初期化] 内にある [実行] キーをタップし、表示された実行確認メッセージ内の [OK] キーをタップすることで、初期化が実行されます。
 - ・ 初期化開始から完了までにはしばらく時間がかかり、処理を途中で停止することはできません。初期化を実行する場合は、完了するまでその場を離れず、処理中に複合機の電源が切断されないよう、十分にご注意ください。
 - ・ 初期化の途中で問題が発生すると、操作パネルに「エラーです。電源を入れ直してください。」と表示されます。その際は、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
 - ・ 万一、停電等により初期化完了前に複合機の電源が切断されてしまった場合は、電源が復旧した後、組み込み管理者 (admin) でログインし、前述の手順に従って再び初期化を実行してください。なお、組み込み管理者 (admin) パスワードが既に初期化されている可能性があるため、設定したパスワードでログインできない場合は、デフォルトパスワードをご利用ください。
 - ・ 初期化が完了すると、複合機は自動的に再起動します。また、再起動後、初期化完了のレポートが印刷され、操作パネル上には初期化完了メッセージが表示されます。「高度なセキュリティを設定する」(本書 25 ページ) を有効にしている場合は、初期化が完了し再起動後、一旦電源を切り、再度電源を入れることでレポートが印刷されます。
 - ・ 初期化完了後、操作パネル上に [OK] ボタンが表示されていない場合は、複合機が一時的にロックされて使用できない状態になります。その際は、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。

目次

はじめに	1
------------	---

1. データセキュリティキットを装着すると 7

- データセキュリティキットのセキュリティ設定について 8
- ドキュメントコントロール機能について 8
- ドキュメントファイリングについて 8
- 権限グループ登録画面について 9
- パスワードの保護について 10
- 連結コピー／連結プリントの制限について 13
- FTP プルプリント機能のセキュリティ設定について 14
- 取り出したデータの読み込みについて 15
- ロックアウトについて 16

2. セキュリティ設定 17

- 設定（管理者）のセキュリティ設定を使用するには 17
- 追加されるセキュリティ設定の項目 18
- データ消去設定 19
- 基本設定 23
- 高度なセキュリティを設定する 25

3. ドキュメントコントロール設定 26

- ドキュメントコントロールについて 26
- ドキュメントコントロール機能が付加できるモード 27
- ドキュメントコントロール機能を有効にする 28
- ドキュメントコントロール機能を使う 31

1

データセキュリティキットを装着すると

データセキュリティキットを装着すると、タッチパネルにアイコンが表示されます。アイコン（) をタップし、表示される画面のアイコン（) をタップすると、データセキュリティキットの製品情報が表示されます。

本製品は、次の製品情報を表示します。

“BP-FR12U データセキュリティキット”

データセキュリティキットを装着すると、各ジョブが完了したあと、複合機に残っているデータを自動的に消去します。

データの消去が開始されると、「データを消去しています。」とメッセージが6秒間※表示されます。

※設定（管理者）の「メッセージ表示時間の設定」で表示時間を変更することができます。

（[設定（管理者）] → [システム設定] → [共通設定] → [操作設定] → [基本設定] → [メッセージ表示時間の設定]）

本製品のバージョン情報は、[設定（管理者）] → [ステータス] → [ファームウェアバージョン] を選択することにより表示されます。



複合機の電源を切ったとき、ストレージ上の画像データを消去している最中であった場合や、各ジョブが完了されていない場合は、データが消去できていないときがあります。消去途中のデータを残したまま、電源を切りたくない場合は、「全データエリア消去」（本書 19 ページ）でデータ消去を完了させた上、電源を切ることをお勧めします。

データセキュリティキットのセキュリティ設定について

データセキュリティキットを装着すると、複合機のセキュリティを向上させるための設定項目を追加することができます。詳しくは「セキュリティ設定」（本書 17 ページ）を参照してください。

ドキュメントコントロール機能について

ドキュメントコントロール機能とは、コピー、プリントした用紙、ファクス受信した用紙またはリストプリントした用紙にドキュメントコントロールパターンを埋め込んで印刷する機能です。重要な書類の二次コピーやファクス送信などを防ぐことができます。詳しくは「ドキュメントコントロール設定」（本書 26 ページ）を参照してください。

ドキュメントファイリングについて

データセキュリティキットを装着した場合、ドキュメントファイリング機能で複合機から各ジョブを保存するためには、ファイルの属性を「親展」に設定してください。「共有」属性、「保護」属性に設定したファイルを保存することはできません。また、リテンション機能でコンピュータからプリントするためには、プリンタードライバの設定でパスワードを入力してください。（工場出荷設定時）

権限グループ登録画面について

データセキュリティキットを装着すると、設定（管理者）の権限グループ登録画面に以下の項目が追加されます。権限グループ登録画面は、[設定（管理者）] → [ユーザー管理] → [アクセス制御設定] → [権限グループ] を選択することにより表示されます。

ホールド以外のプリントジョブ

ユーザー認証設定時の権限グループ登録で、ホールド以外のプリントジョブが許可されます。[許可] をタップしたあと、[登録] キーをタップしてください。

ドキュメントファイリング許可設定

ユーザー認証設定時の権限グループ登録で、ドキュメントファイリング保存を許可するかどうかを、保存モードとジョブタイプ別に設定することができます。

許可する保存形式のチェックボックスをタップして、チェックマークを付けてください。[許可] をタップしたあと、[登録] キーをタップしてください。



ドキュメントファイリング保存は、以下の設定でそれぞれ許可する必要があります。初期設定では、親展モードでの保存のみ許可されています。

- 権限グループ登録のドキュメントファイリング許可設定（本設定）
- セキュリティ設定のドキュメントファイリング禁止設定（本書 23 ページ）

パスワードの保護について

データセキュリティキットを装着すると、複合機の操作パネルから入力するパスワードや、Web ページから入力するパスワードなどを保護することができます。

■ 管理者パスワード／ユーザーパスワード

データセキュリティキットを装着すると、ユーザー認証機能が設定されていないときの管理者パスワードの入力や、ユーザー認証機能が設定されているときの管理者パスワードやユーザーパスワードの入力を 3 回連続で誤ると、入力を誤った管理者やユーザーによる認証操作を 5 分間禁止します。

詳しくは「ロックアウトについて」(本書 16 ページ)を参照してください。

■ ドキュメントファイリングの親展フォルダー／親展ファイル

特定の親展フォルダーや親展ファイルについて、3 回連続で誤ったパスワードを入力すると、そのフォルダーやファイルの操作が禁止されます。フォルダーやファイルの操作の禁止を解除するには、「操作禁止状態を解除 (ファイル／フォルダー)」(本書 24 ページ)を使用します。



- ドキュメントファイリング機能の一括印刷を利用すると、同じユーザー名／パスワードで設定しているファイルを一括で印刷することができます。
検索時に入力したパスワードと異なるパスワードが設定されたファイルは、誤ったパスワードが入力されたファイルとして扱われます。そのため、[全ユーザー]、[ユーザー名/メ]での検索はできるだけ実行しないことをお勧めします。
- ドキュメントファイリング機能を使用しているときは、操作が禁止されたファイルは、以下のようになりますのでご注意ください。
 - ・ 一括印刷を行うとき、検索条件に該当しても印刷されません。

■ ドキュメントファイリングのデータ検索画面

データセキュリティキットを装着すると、ドキュメントファイリング検索時に表示される画面で、パスワードの入力設定が表示されなくなります。

■暗号化 PDF

暗号化 PDF のダイレクトプリントを行うと、プリントジョブがジョブ状況画面のスプール画面にリスト表示され、パスワードを入力してプリントを実行します。

データセキュリティキットを装着した際に、3 回連続で誤ったパスワードを入力すると「操作を禁止します。管理者に連絡してください。」とメッセージを 6 秒間表示して、プリントアウトを禁止します。

また、スプール画面で 3 回誤ったパスワードを入力したファイルを選択した場合は、「このジョブの印刷は禁止されています。ジョブを削除しますか？」とメッセージが表示されます。

- [はい] キーをタップすると、プリントジョブが削除されます。
- [いいえ] キーをタップすると、プリントジョブの削除を中止します。

プリントジョブの禁止を解除するには、「操作禁止状態を解除（ファイル／フォルダー）」（本書 24 ページ）を使用します。

■管理者の権限設定

データセキュリティキットを装着すると、[設定（管理者）] → [システム設定] → [ドキュメントファイリング設定] → [基本設定] → [管理者の権限設定] で、「パスワードの変更」が表示されなくなります。（管理者パスワードの入力で、ファイルまたはフォルダーに設定されているパスワードを任意に変更することができなくなります。）

■FTP プルプリント

FTP プルプリント機能を利用して FTP サーバー上のファイルを直接印刷する場合は、FTP サーバーを選ぶ際に、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

■ユーザー認証設定時のログイン

複合機の設定（管理者）によって、「ユーザー認証」が設定されているときは、複合機をお使いになる前に認証画面でログインする必要があります。「ログイン失敗時の警告」（[設定（管理者）] → [システム設定] → [認証設定] → [初期設定]）を設定した状態で、3 回連続で誤入力すると、誤入力したユーザーによるログイン操作が5 分間禁止されます。詳しくは「ロックアウトについて」（本書 16 ページ）を参照してください。ログイン時の誤入力のカウントはユーザー別に行われます。データセキュリティキットを装着すると、この「ログイン失敗時の警告」の設定が常に設定された状態になります。

※高度なセキュリティを設定している場合、複合機の各機能を使用する前に必ずユーザー認証が必要になります。詳しくは「高度なセキュリティを設定する」（本書 25 ページ）を参照してください。

連結コピー／連結プリントの制限について

連結コピー／連結プリントを行うと、親機と子機の構成（データセキュリティキットの有無）の違いによって、以下のように機能します。

■ 連結コピー

		子機	
		データセキュリティキットあり	データセキュリティキットなし
親機	データセキュリティキットあり	連結機能を利用できます。親機、子機ともにデータの暗号化処理、データ消去を行います。	連結機能を利用できません。
	データセキュリティキットなし	連結機能を利用できます。子機側は、データの暗号化処理、データ消去を行います。	通常の連結機能を利用できます。

■ 連結プリント

		子機	
		データセキュリティキットあり	データセキュリティキットなし
親機	データセキュリティキットあり	連結機能を利用できます。親機、子機ともにデータの暗号化処理、データ消去を行います。	連結機能を利用できます。親機側は、データの暗号化処理、データ消去を行います。
	データセキュリティキットなし	連結機能を利用できます。子機側は、データの暗号化処理、データ消去を行います。	通常の連結機能を利用できます。

FTP プルプリント機能のセキュリティ設定について

複合機をネットワークプリンターとして使用している環境下で、あらかじめ登録した FTP サーバー上のファイルを、プリンタードライバーを介さずに複合機の操作パネルから直接印刷する FTP プルプリント機能を利用する際、データセキュリティキットを装着した状態では、FTP サーバーの「ユーザー名」、「パスワード」を用いて利用者の認証を行うことができます。

この認証は、複合機の FTP プルプリント機能を利用するための設定を行う画面にある [ユーザー認証を有効にする] チェックボックスにチェックマークが付いていれば、有効になります。

■ FTP サーバー上のファイルを直接プリントする (ユーザー認証設定時)

複合機のタッチパネル画面から、印刷するファイルがある FTP サーバーを選ぶ際に、そのサーバーのユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

ユーザーズマニュアル「プリンター」の「FTP サーバー上のファイルを直接プリント」の手順 3 の操作で、該当する FTP サーバーを選ぶと、選んだ FTP サーバーのユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。

[ユーザー名] キーおよび [パスワード] キーをタップすると、文字入力画面に切り替わりますので、それぞれ有効なユーザー名とパスワードを入力してください。

入力を終わったら、[確定] キーをタップしてください。

以降は、ユーザーズマニュアル「プリンター」の「FTP サーバー上のファイルを直接プリント」の手順 4 からの操作を行ってください。

取り出したデータの読み込みについて

データセキュリティキットを装着した状態で、Web ページからの操作により、ドキュメントファイリング機能などの保存データをパソコンへ保存した場合は、そのデータを取り出した複合機にのみ、データを戻すことができます。

同一条件の複合機であっても、戻そうとしているデータを取り出していない複合機には、そのデータを戻すことはできません。

また、親展フォルダーを選択している場合のみ、Web ページに [PC から リストア] キーが表示され、複合機側にデータを戻すことができます。

ロックアウトについて

管理者パスワード入力を含め、ユーザー認証時にパスワードの誤入力をカウントし、規定回数（3 回）に達した場合、ユーザーアカウントがロックされ、以降そのユーザーの認証受付を 5 分間停止する機能です。誤入力のカウントはユーザー別に行われ、正しいパスワードが入力された時点でリセットされます。

■ロックアウトの設定

ロックアウトの設定は次の手順で確認します。

操作パネルの [設定 (管理者)] → [システム設定] → [認証設定] → [初期設定] → [ログイン失敗時の警告] をタップします。

※データセキュリティキットを装着すると「ログイン失敗時の警告」は常に設定された状態になります。ロックアウトされたユーザーは、[設定 (管理者)] → [システム設定] → [認証設定] → [初期設定] → [無効ユーザーの印刷禁止] が設定されていない場合でも、ロックアウト中はプリントを行うことはできません。

■ロックアウトの解除

一定時間経過による自動解除

ロックアウト後、5 分経過すると該当ユーザーのロックアウト状態が解除されます。

電源を OFF にしてもロックアウト状態は解除されません。

ロックアウト後ロックアウトが解除される前に電源を OFF にした場合は、次の電源 ON 時から 5 分間ロックアウト状態となります。(停電など予期せぬ事態が発生した場合も含む)

手動解除

該当ユーザーがロックアウトされた場合、[操作禁止状態を解除] キーが該当ユーザーの “ユーザーの登録” 画面に表示されますので、管理者はキーをタップし手動解除できます。

※高度なセキュリティを設定している場合、手動解除はできません。

詳しくは「高度なセキュリティを設定する」(本書 25 ページ) を参照してください。

ここでは、データセキュリティキットを装着することによって追加される「セキュリティ設定」の項目について説明しています。

設定（管理者）のセキュリティ設定を使用するには

設定（管理者）を使用するときの操作方法は、ユーザーズマニュアルの「設定モード」の説明にしたがって設定してください。

各設定項目や使用方法の内容については、次ページ以降を参照してください。



データセキュリティキットを装着すると、管理者パスワードの入力を 3 回連続して誤った場合、5 分間管理者パスワードの入力が禁止されます。詳しくは「ロックアウトについて」(本書 16 ページ)を参照してください。

追加されるセキュリティ設定の項目

データセキュリティキットを装着すると、設定（管理者）の「セキュリティ設定」にセキュリティに関する設定項目が追加されます。

設定項目	ページ	項目説明
データ消去設定	19	
■全データエリア消去 ※	19	
■ジョブ状況完了エリア消去 ※	20	複合機のメモリーやストレージに保存されている各エリアのデータを、手動で消去します。
■ドキュメントファイリングデータ消去 ※	21	
■アドレス帳／本体登録データ消去 ※	21	
基本設定	23	
■電源 ON 時の自動消去	23	データを自動消去するタイミングを設定します。
■ドキュメントファイリング禁止設定	23	操作を禁止する項目を設定します。特定の操作を禁止して、機密性の高い書類データなどの出力を防ぎます。
■データリストプリント禁止設定	24	
■操作禁止状態を解除（ファイル／フォルダー）	24	ジョブ状況の完了画面を表示させる／表示させないを設定します。

※ ユーザー認証設定時に、「権限グループ」でセキュリティ設定の権限が与えられたユーザーでも、設定することができません。（組込み管理者（admin）のみ操作可能です。）

セキュリティ設定項目には上記のほかに、「SSL/TLS 設定」（ユーザーズマニュアル 設定モード、[システム設定] → 「セキュリティ設定」）、「S/MIME 設定」（ユーザーズマニュアル 設定モード、[システム設定] → 「セキュリティ設定」）、「IPsec 設定」（ユーザーズマニュアル 設定モード、[システム設定] → 「セキュリティ設定」）、「監査ログ」（ユーザーズマニュアル 設定モード、[システム設定] → 「セキュリティ設定」）、「ドキュメントコントロール設定」（本書 26 ページ以降）などがあります。



上記のセキュリティ設定のうち「基本設定」の項目は、複合機の Web ページからも設定することができます。

データ消去設定

■全データエリア消去

複合機のストレージやネットワークストレージ領域に保存されている各エリアのデータを残すことなく、手動で消去したいときに使用します。ただし、以下の内容のデータ消去は、この設定では行えません。「アドレス帳／本体内登録データ消去」（本書 21 ページ）で行ってください。

- ユーザー情報
- 連絡先／グループ／プログラム（宛先のみ）／中継同報メモリーボックス[※]／転送登録情報
- 掲示板／親展メモリーボックス[※]
- 発信元情報
- 受信拒否／許可設定情報（ポーリング許可番号含む）
- 転送登録情報

[※]メモリーボックス内の画像データは「全データエリア消去」を実行すると消去されます。

1 [消去実行] キーをタップします。

「全データエリアを消去します。（ただし、アドレス帳／ユーザーリストのデータは含まれません。）」という確認メッセージが表示されます。

- [キャンセル] キーをタップしたときは、前のメニュー画面に戻ります。

2 [OK] キーをタップします。

「しばらくお待ちください」とメッセージが出たあと、「全データエリアを消去中です。」とメッセージが表示されます。

- 消去完了後、確認のためメッセージが表示されます。

3 [OK] キーをタップして複合機を再起動します。

■ ジョブ状況完了エリア消去

ジョブ状況画面の完了画面で表示される以下の項目のデータを、すべて消去したいときに使用します。

(ジョブ状況の完了画面は、ジョブ状況画面の[完了]キー(ジョブ状態画面切り替えキー)をタップすると表示します。)

- プリンターのユーザー名
- ファクス/イメージ送信の宛先
- ファクス/イメージ送信の通信記録表データ
- 受信データの送信者

1 [消去実行] キーをタップします。

確認を求めるメッセージが表示されます。

2 [OK] キーをタップします。

データの消去動作を実行します。

(消去中の動作については「全データエリア消去」(本書 19 ページ)と同じです。)

■ドキュメントファイリングデータ消去

ドキュメントファイリング機能で保存したデータを消去したいときに使用します。

ファイルの属性を「保護」や「親展」に設定しているデータも消去します。

[ファイリングデータ(保護ファイル/親展ファイル含む)] チェックボックス:

「ファイリング」で標準フォルダーやユーザーフォルダーに保存したデータを消去する場合にタップして、チェックマークを付けます。

[一時保存データ(保護ファイル含む)] チェックボックス:

「自動一時保存」で保存したデータを消去する場合にタップして、チェックマークを付けます。

1 [消去実行] キーをタップします。

確認を求めるメッセージが表示されます。

2 [OK] キーをタップします。

チェックマークを付けたデータの消去動作を実行します。

(消去中の動作については「全データエリア消去」(本書 19 ページ)と同じです。)

■アドレス帳/本体内登録データ消去

「全データエリア消去」(本書 19 ページ)と[設定(管理者)] → [システム管理] → [設定の初期化] → [工場出荷時設定リセット]によって、消去/初期化できない次の項目を消去したいときに使用します。

消去するデータは以下の種類があります。

- ユーザー情報
- 連絡先/グループ/プログラム(宛先のみ)/中継同報メモリーボックス/転送登録情報^{※1}
- 掲示板/親展メモリーボックス^{※2}
- 発信元情報
- 受信拒否/許可設定情報(ポーリング許可番号含む)^{※1、※3}
- 転送登録情報^{※4}

- ※1. オプションの装着状態により名称が異なります。
- ※2. ファクス機能が有効時に設定可能
- ※3. ファクス機能、インターネット Fax 機能のいずれかが有効時に設定可能
(「ポーリング許可番号含む」はファクス機能が有効時のみ表示)
- ※4. 転送登録情報のみ消去する場合に設定してください。

1 消去したい項目のチェックボックスをタップして、チェックマークを付けます。

2 [消去実行] キーをタップします。

確認を求めるメッセージが表示されます。

3 [OK] キーをタップします。

チェックマークを付けたデータの消去動作を実行します。

(消去中の動作については「全データエリア消去」(本書 19 ページ) と同じです。)



本製品、もしくは本製品を設置した複合機を廃棄、所有者を変更する場合、管理者の方は、必ずこの機能ですべての項目を消去してください。その際は、データの消去が完了するまでその場を離れず、完了を必ず確認してください。

基本設定

自動消去するタイミングや、操作と表示を禁止する項目についての設定など、いろいろな設定ができます。

■電源 ON 時の自動消去

電源スイッチを入れたときに複合機に保存されているデータを残すことなく、自動的に消去します。

消去するデータは以下の種類があります。

- 「全データエリア」
- 「ファイリングデータ（保護ファイル／親展ファイル含む）」
- 「一時保存データ（保護ファイル含む）」
- 「ジョブ状況完了エリア」

電源スイッチを入れたときに自動的に消去させるデータのチェックボックスをタップして、チェックマークを付けてください。チェックマークを付けたあと、[登録] キーをタップしてください。

工場出荷時は、チェックマークは入っていません。



イメージ送信（ファクス、ネットワークスキャナー、インターネット Fax）の予約ジョブ^{*}があるときは、「電源 ON 時の自動消去」は行いません。

^{*}未出力のファクス、インターネット Fax の受信ジョブを含みます。ただし、ファクスのメモリーボックス（親展メモリーボックスを除く）内にデータがある状態については含みません。

■ドキュメントファイリング禁止設定

ドキュメントファイリングの保存方法を制限できます。

ドキュメントファイリングをはたらかせる機能（コピー、プリンター、スキャン保存、ファクス / イメージ送信）ごとに、保存形式（一時保存モード、共有モード、親展モード）の禁止設定を行えます。

- 禁止する保存形式のチェックボックスをタップして、チェックマークを付けてください。チェックマークを付けたあと、[登録] キーをタップしてください。
- 「属性変更」により、すでに保存しているファイルの属性を変更する場合も、禁止されている保存形式に変更することはできません。

※属性変更についてはユーザーズマニュアルの「ドキュメントファイリング」→「ファイリング」より「属性を変更する」を参照してください。



「ドキュメントファイリング禁止設定」で、ある属性を禁止したときに、すでに同じ属性のファイルが保存されている場合、そのファイルを禁止した属性以外に変更することができます。

プリンター機能で出力する際、プリンタードライバのジョブハンドリング（ユーザーズマニュアル「プリンター」の「プリントデータを保存して使用（ドキュメントファイリング）」）の設定画面には、このプログラムで禁止された保存形式も表示されます。ただし禁止された保存形式を選択して出力を実行しても、出力データの保存は行われません。（出力のみ行われます。）

■ データリストプリント禁止設定

システム設定（一般）の「ユーザー用リスト」で出力できる、次のリストの出力を禁止できます。

「マシン状態リスト」「宛先登録リスト」「ドキュメントファイリングフォルダーリスト」

出力を禁止するリストのチェックボックスをタップして、チェックマークを付けたあと、[登録] キーをタップしてください。

工場出荷時は、すべて無効（禁止しない）に設定されています。

通常はすべてチェックマークを付けた状態で運用ください。

■ 操作禁止状態を解除（ファイル／フォルダー）

パスワード誤入力により操作が禁止されているドキュメントファイリングのフォルダーやファイル、暗号化PDFの禁止を解除するために使用します。[解除する] キーをタップするとすべての禁止状態が解除され、操作が行えるようになります。操作が禁止されていないときは、[解除する] キーがグレーアウトしています。

高度なセキュリティを設定する

本設定を有効にすることで複合機のセキュリティ関連設定が、高度なセキュリティ状態に変更され、ユーザー認証も常に必要になります。またセキュリティに関するいくつかの設定が変更できなくなり、複合機の機能に制限が生じます。

主な機能制約は以下の通りです。

- ユーザー認証機能が常に有効になります。
- プリントジョブは、常にホールドプリント状態となり、操作パネルからの印刷操作が必要となります。
- 暗号化を伴わない通信機能は利用できなくなります。
- Sharp OSA 機能を利用していた場合、利用できなくなります。

ご注意

高度なセキュリティ状態にするには次の設定を行ってください。

操作パネルの [設定 (管理者)] → [セキュリティ設定] → [高度なセキュリティを設定する] をタップして実行します。

この状態において要求される複合機の運用については、同梱の注意書をお読みください。

「高度なセキュリティ状態に設定する」を有効にすると元の設定に戻せなくなります。

ドキュメントコントロールについて

ドキュメントコントロール機能を働かせて、コピー、プリントした用紙、ファクス受信した用紙またはリストプリントした用紙に、ドキュメントコントロールパターンを埋め込んで印刷する機能です。

一度ドキュメントコントロールパターンを埋め込んで印刷した用紙を、ドキュメントコントロール機能が有効な当社機で再度原稿読み込みしようとする、「ドキュメントコントロールパターンが検出されました。ジョブを中止します。」とメッセージが表示されるとともに、管理者に E-mail を送信します。

重要な書類の二次コピーやファクス送信を防ぐことができます。



原稿や用紙の種類やサイズ、または設定条件によってドキュメントコントロールが有効に機能しない場合があります。
ドキュメントコントロール機能を有効に機能させるには、以下の内容にご注意ください。

●原稿について

- ・ 写真比率の高い原稿の場合、正しく動作しない場合があります。
- ・ ドキュメントコントロール機能は、テキストデータの印字保護を目的としているため、グラフィックデータで利用する場合、正しく動作しない場合があります。

●ドキュメントコントロールパターンを印刷する用紙について

- ・ 白色の用紙をお勧めします。白色以外の用紙を使用する場合、ドキュメントコントロールパターンの検知機能が低下し、正しく動作しない場合があります。
- ・ B5 サイズ以上の用紙をご使用ください。
使用できる用紙サイズを、以下に示します。

SRA3、A3W、SRA4、A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、
11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、
8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 11"R、7-1/4" x 10-1/2"R、
8K、16K、16KR

おことわり

当社は、ドキュメントコントロール機能が常に有効に機能することを保証するものではありません。ドキュメントコントロール機能が有効に機能しない場合もありますので、この点をご理解のうえ、ご使用ください。

ドキュメントコントロール機能が付加できるモード

ドキュメントコントロール機能を働かせて、ドキュメントコントロールパターンを埋め込んで印刷できるモードには、次のものがあります。

- コピー
- プリンター
- ドキュメントファイリング印刷
- インターネット Fax 受信
- ダイレクト SMTP 受信
- ファクス受信
- リストプリント

ドキュメントコントロール機能を有効にする

ドキュメントコントロール機能を有効にするためには、次の設定を行ってください。

[設定 (管理者)] → [セキュリティ設定] → [基本設定] → [ドキュメントコントロール設定] をタップして表示されるドキュメントコントロールパターン設定画面で各設定を行います。

■ ドキュメントファイリングによる再印刷に関する設定

ドキュメントファイリング機能により、コピーやプリントデータを複合機のストレージに保存して、印刷や送信などの再操作で印刷するときの設定です。[保存時にパターンを印刷した場合は、必ず印刷する] チェックボックスを にすると、あらかじめドキュメントコントロールパターンを印刷したものに関しては、再度印刷するときに必ずドキュメントコントロールパターンが印刷されます。

■コピー／プリンター／ドキュメントファイリング印刷モードに関する設定

ドキュメントコントロール設定画面の「コピー」「プリンター」「ドキュメントファイリング印刷」の各項目により、コピー／プリンター／ドキュメントファイリング印刷モードに関する設定を行うことができます。

印刷方法設定(印刷方法を設定する)

セレクトボックスの▼をタップして表示される項目の一覧から、いずれかの項目をタップして選択してください。

常に印刷しない：

常にドキュメントコントロールパターンを印刷しません。

常に印刷する：

常にドキュメントコントロールパターンを印刷します。

ユーザーによる選択を可能にする：

印刷ジョブを設定するごとに、ドキュメントコントロールパターンを印刷する／印刷しないを設定することができます。

パターン設定(印刷するパターンを設定する)

[印刷方法設定] で [常に印刷する] または [ユーザーによる選択を可能にする] を選択すると、パターン設定を選択することができます。

セレクトボックスの▼をタップすると、パターン 1～5 を選択することができます。いずれかの項目をタップして選択してください。

印刷される画像によりドキュメントコントロール機能が利用できない場合は、パターン 1～5 の設定を変更してお試しください。

■ インターネット Fax 受信／ファクス受信／リストプリントモードに関する設定

ドキュメントコントロール設定画面の「インターネット Fax 受信」「ファクス受信」「リストプリント」の各項目により、インターネット Fax 受信／ファクス受信／リストプリントモードに関する設定を行うことができます。

印刷方法設定(印刷方法を設定する)

セレクトボックスの▼をタップして表示される項目の一覧からいずれかの項目をタップして選択してください。

常に印刷しない：

常にドキュメントコントロールパターンを印刷しません。

常に印刷する：

常にドキュメントコントロールパターンを印刷します。



インターネット Fax 受信／ファクス受信モードで、「常に印刷する」を選択したときには、それぞれの転送機能を無効にすることをお勧めします。

パターン設定(印刷するパターンを設定する)

[印刷方法設定] で [常に印刷する] を選択すると、パターン設定を選択することができます。

セレクトボックスの▼をタップすると、パターン 1 ～ 5 を選択することができます。いずれかの項目をタップして、選択してください。

印刷される画像によりドキュメントコントロール機能が利用できない場合は、パターン 1 ～ 5 の設定を変更してお試しください。

ドキュメントコントロール機能を使う

ドキュメントコントロール機能を使用すると、出力されたコピー、プリントした用紙やファクス受信した用紙またはリストプリントした用紙にドキュメントコントロールパターンが印刷されます。

■各モードに共通した仕上がり状態

- 両面印刷時の裏面なども含めて、ドキュメントコントロール機能を持った当社機にて印刷するすべてのページにドキュメントコントロールパターンが印刷されます。
- 両面印刷時に奇数枚の原稿を印刷したときなど、白紙ページが出力される場合は、白紙ページにはドキュメントコントロールパターンが印刷されません。
- 表紙／合い紙機能（OHP 合い紙も含む）利用時は、表紙／合い紙にコピーするときのみドキュメントコントロールパターンが印刷されます。コピーしない場合は、印刷されません。

ドキュメントコントロール機能を有効にしたあと、実際に使用するときは、次ページ以降に記載の操作を行ってください。

■コピーモードで使用する場合

コピーモードで [他の機能] キーをタップして表示させます。

1 [ドキュメントコントロール] キーをタップする



ドキュメントコントロール設定での設定状況により、[ドキュメントコントロール] キーの表示状態と以降の操作が変わります。

ドキュメントコントロール機能の設定状況	「他の機能」画面	
	[ドキュメントコントロール] キーの表示	以降の操作
[常に印刷しない]	グレー表示	操作不可
[常に印刷する]	反転表示	キーをタップすると音が鳴り、操作不可
[ユーザーによる選択を可能にする]	通常表示	キーをタップすると反転表示して、機能を有効にします

2 [スタート] キーをタップする



ドキュメントコントロール機能と各種機能（白黒反転、鏡像など）を組み合わせてコピーする場合は、ドキュメントコントロールパターンは各種機能に従わず、一定のパターンで印刷されます。例えば、白黒反転では原稿の画像は白黒反転しますがドキュメントコントロールパターンは反転しません。

■プリンターモードで使用する場合

- ドキュメントコントロール設定の [印刷方法設定] で [常に印刷する] を設定している場合は、ドキュメントコントロールパターンを常に印刷します。
- [ユーザーによる選択を可能にする] を設定している場合は、以下の手順でドキュメントコントロールパターンを印刷します。

1 プリンタードライバ初期設定画面（プロパティ画面）の [データセキュリティキット] チェックボックスにチェックマークを付ける

2 印刷を実行する際に、プリンタードライバの設定画面の [スタンプ] タブをクリックし、[ドキュメントコントロール] ボタンをクリックする

■ ドキュメントファイリングモードで使用する場合

ドキュメントファイリングでデータを保存したあと、以下の手順でドキュメントコントロールパターンを印刷します。(ドキュメントファイリングの再操作については、ユーザーズマニュアルの「ドキュメントファイリング」を参照してください。)



印刷方法設定について

[ユーザーによる選択を可能にする] を選択すると、[ドキュメントコントロール] キーをタップしてドキュメントコントロールパターンを印刷するかどうかを選択することができます。ただし、[保存時にパターンを印刷した場合は、必ず印刷する] チェックボックスを にすると、[ユーザーによる選択を可能にする] の設定に関わらず、ドキュメントコントロールパターンの印刷の解除ができなくなります。

1

印刷設定画面の [他の機能] キーをタップし、[ドキュメントコントロール] キーをタップする



ドキュメントコントロール設定の「印刷方法設定」で「常に印刷しない」を選択した場合は [ドキュメントコントロール] キーがグレーアウト表示になり、タップすることができません。(ただし、保存時にドキュメントコントロールパターンを印刷したファイルの場合、ドキュメントコントロール設定で [保存時にパターンを印刷した場合は、必ず印刷する] チェックボックスを にした状態では [ドキュメントコントロール] キーをタップすることができます。)

2

[今すぐ印刷] キーをタップする



- 印刷後データを保存する場合は、[印刷後削除] チェックボックスを にした状態で [今すぐ印刷] キーをタップしてください。
- 印刷後データを削除する場合は、[印刷後削除] チェックボックスを にした状態で [今すぐ印刷] キーをタップしてください。

■ インターネット Fax 受信／ファクス受信／リストプリントモードで使用する場合

特別な操作はありません。ドキュメントコントロール機能の設定状況にしたがって、印刷されるときに白黒のドキュメントコントロールパターンを埋め込んで印刷されます。

■ E-mail ダイレクトプリント時の本文のコマンド

以下の入力例を E-mail ダイレクトプリントの E-mail 本文に入力することにより、印刷の有無の設定が可能となります。

機能	コマンド名	値	入力例
パターン印刷 ON/OFF	DOCUMENTCONTROL	ON OFF	DOCUMENTCONTROL =ON

シャープ株式会社